

い ぼ 遺 跡 伊 保 遺 跡

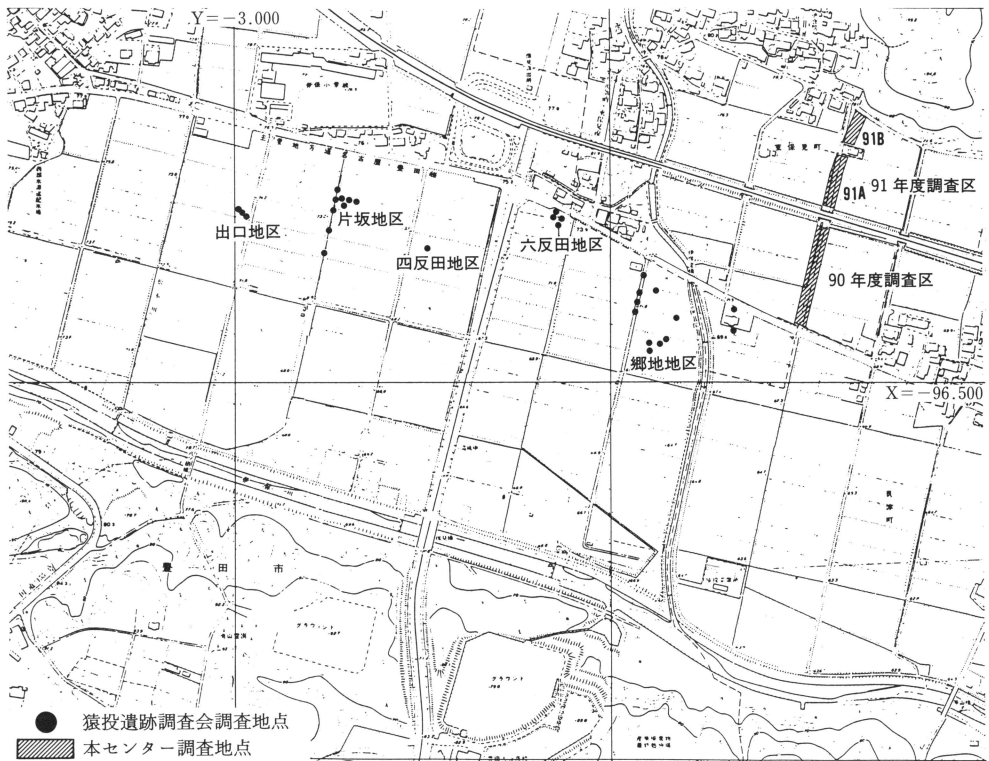
調査の経過

伊保遺跡は豊田市保見町、東保見町に所在し、猿投山から南に伸びる舌状台地南端に東西に細長く立地する。昭和44年に猿投遺跡調査会により調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代の遺構・遺物、奈良・平安時代の遺物を採集している。

調査の概要

今回の調査は県道加納東保見線建設に伴う事前調査で、東保見町抱六地内において昨年度より継続して行っている。今年度は2調査区(91A・B)を設定したが、91B区は排水溝が調査区の中央を横断しているため、さらに2分割(Ba・Bb)せざるを得なかった(第1図)。面積は1,750㎡である。これまでの調査の成果を昨年度も含め時期ごとに紹介する(第2図)。

・旧石器時代(I期) 木葉形尖頭器4点が出土。出土地点は近いもののひとつのユニットを形成する確証は得られなかった。

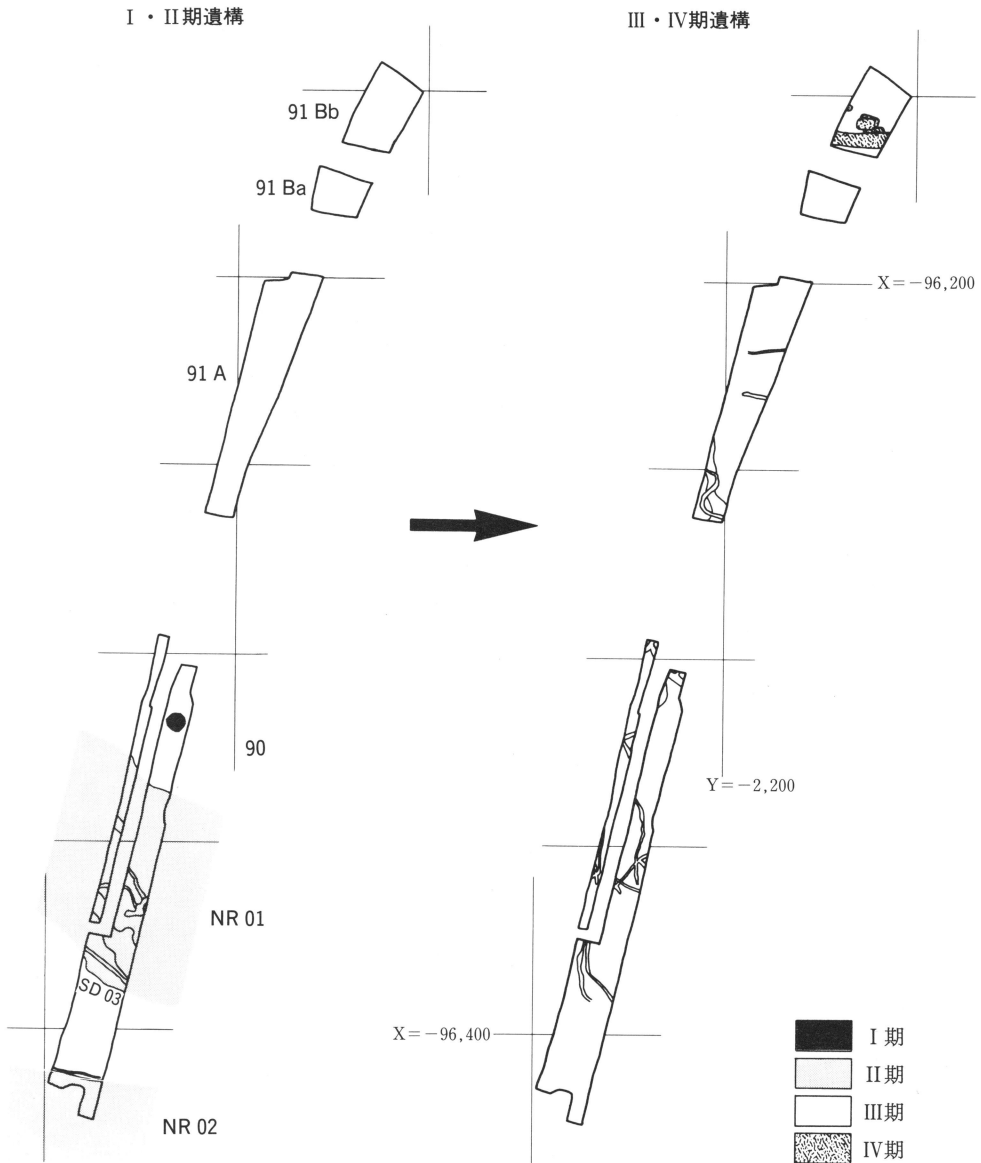


第1図 伊保遺跡調査区位置図 1:10000

・弥生時代後期（Ⅱ期） 自然流路2条（NR01・02）、溝1条（SD03）を検出。NR01はⅡ期にほとんど流れを止めており、その代わりにNR01南肩に沿ってSD03を掘っている。NR02はⅢ期まで継続している。伊保遺跡東限と考えられる。

・奈良・平安時代（Ⅲ期） 溝17条を検出。ただし、時期決定の資料が極めて少なく推測の域を出ない。

・鎌倉時代（Ⅳ期） 91Bb区において検出。集落の一部と思われる。調査途中のため詳細は掴めていない。
(岡本直久)



第2図 遺構図 1:2000